

科目 「文学国語」 シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	文学国語	単位数	3単位	学年・学科	3学年全学科
使用教科書	『新編文学国語』 (大修館書店)				
副教材等	『国語必携 ライトパーフェクト演習』 (尚文出版)、常用漢字ダブルクリア (尚文出版)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	<p>① 近代以降の様々な文章、特に随筆・小説などを読み、我が国の言語文化に対する理解を深める。</p> <p>② 生涯にわたって読書に親しむ態度を育てること、多様な文章や考えに触れることで想像力を働かせ、感動したことを共有する力を育む。</p> <p>③ 国語の向上を図る態度や、言語文化の継承と創造の担い手となる資質を涵養する。</p>
学習の到達目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、国語の能力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
取得可能な資格	特記なし。
授業を受ける心構え	授業には意欲的に取り組み、始業5分前には教科書やノートの準備をし、授業を「聞く」姿勢を整えておく。また、提出物は必ず期限を守って出す。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	<p>・随想「そとみとなかみ」 (角田光代)</p> <p>・小説「ナイン」(井上ひさし)</p> <p>・「若紫」(源氏物語)</p>	<p>・随想を読み、筆者の考えに触れることで、発想の面白さに気づく。</p> <p>・作品に触れ、自分自身の生き方を振り返る機会とする。</p> <p>・友情をテーマにした小説を読み、人の心のありようを味わう。</p>	<p>・一斉授業(座学)</p> <p>・言葉でスケッチ</p> <p>・ライトパーフェクト演習</p>	<p>平常考査</p> <p>中間考査</p> <p>学期末考査</p> <p>提出物</p>
9 10 11 12	<p>・四面楚歌(史記)</p> <p>・小説「こころ」(夏目漱石)</p> <p>・小説「山月記」(中島敦)</p>	<p>・中国の古典に触れ、人の感情の普遍性を味わう。</p> <p>・家族をテーマにした小説を読み、愛情の形に触れる。</p> <p>・山月記を読んで、人間誰もが抱える内面の苦悩に触れ、自身の生き方について考える。</p>	<p>・一斉授業(座学)</p> <p>・エッセイを書こう</p> <p>・ライトパーフェクト演習</p>	<p>平常考査</p> <p>中間考査</p> <p>学期末考査</p> <p>提出物</p>
1 2 3	<p>・小説「神去なあなあ日常」 (三浦しをん)</p> <p>・「月やあらぬ」(伊勢物語)</p>	<p>・小説を読み、自分の生き方や社会との関わりについて考える。</p> <p>・平安時代の文章に触れ、当時の感性を味わう。</p>	<p>・一斉授業(座学)</p> <p>・ライトパーフェクト演習</p>	<p>平常考査</p> <p>学年末考査</p> <p>提出物</p>

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
<p>表現と理解に役立てるための文法・語句・語彙・漢字などを理解し、基本的な知識を身につけようとしている。</p> <p>【定期考査・提出物出席状況】</p>	<p>自分の意見をまとめ、質問に即して文章の要旨のまとめ等を通して、適切に読み取ろうとしている。</p> <p>【定期考査・授業態度】</p>	<p>国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしている。</p> <p>【提出物・授業態度・発表】</p>

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
定期考査	40	30	30	100	学習到達度の確認
平常考査	40	30	30	100	予習・復習の確認

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
地理歴史	歴史総合	全学科	3	2	歴史総合新訂版(実教出版)	なし

1 科目の目標と評価の観点

目標	社会で起こる出来事を歴史的な視点から考え、課題を見つけたり解決したりする活動を通して、広い視野を持ち、グローバル化が進む国際社会の中で主体的に生き、平和で民主的な国家や社会をつくる担い手として必要な公民としての資質や能力を、次のように育てることを目指す。		
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、理解するとともに諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題に関して考察したことを効果的に説明したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等	定期考査 平常考査 課題プリント 等	平常課題 夏課題 授業態度・発表 等
	4割	3割	3割

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価基準等		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1編第1章 ・近代化と私たち 「近代化への胎動」	4	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。	・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現する。	・科目全体の学習の見通しを立て、課題を追究しようとしている。
第1編第2章・第3章 ・近代化と私たち 「欧米の市民革命と『西洋の衝撃』」 「欧米諸国と日本の国民国家形成」	5 6	・18世紀の東アジア諸国の諸相について、資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付ける。 ・工業化と世界市場の形成について、概念的に理解している。	・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などについて考察し、結果を表現している。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などについて考察し、結果を表現している。	・18世紀のアジア経済と社会について、見通しを持って学習に取り組んだり、自らの学習を調整しようとしていたりしている。
第4章 ・近代化と私たち 「帝国主義の時代」	7	・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について、概念的に理解している。 ・現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について理解し、説明している。	・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア諸国に与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などについて考察し、結果を表現している。 ・近代化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について振り返り、自らの学習を調整しようとしている。 ・「近代化と私たち」における自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

第2編第5章	国際秩序の変化や大衆化と私たち 「第一次世界大戦と大衆社会」	9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、諸資料から、情報を適切に読み取ったり、まとめたりしている。 ・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について理解し、説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 ・国際秩序の変化や大衆化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、学習の見通しを立て、課題を追究しようとしている。 ・「国際秩序の変化や大衆化と私たち」における自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
第6章	「経済危機と第二次世界大戦」	11	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について理解し、説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際秩序の変化や大衆化と私たち」における自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
第3編第7章	グローバル化と私たち 「冷戦と脱植民地化」	12 1	<ul style="list-style-type: none"> ・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会について、概念的に理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などについて考察し、結果を表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会について振り返り、自らの学習を調整しようとしている。
第8章 第9章	「多極化する世界」 「グローバル化と現代世界」 「現代的な諸課題の形成と展望」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結後の国際政治の変容と課題について、概念的に理解している。 ・歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題について理解し、説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などについて考察し、結果を表現している。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、主題について、現代的な諸課題を展望するなどして、多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結後の国際政治の変容と課題について振り返り、自らの学習を調整しようとしている。 ・「歴史総合」で学んだ全ての内容における自身の学習の経緯について、自身の関わりを踏まえて振り返るとともに、次の学びに向けての課題を見いだそうとしている。

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学	数学A	全学科選択	3	2	最新 数学A(数研出版)	パラレルノート数学A(数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等	定期考査 平常考査 課題プリント 等	平常課題 夏冬課題 ポートフォリオ 授業態度・発表 等
	4割	3割	3割

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価基準等			
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
第1章 第1節 場合の数	1. 集合	4	○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。 ○共通部分、和集合、補集合を求めることができる。	○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。 ○日常語の「かつ」「または」「・・・でない」との関連を認識しようとする。	
	2. 集合の要素の個数		○要素を書き並べて表して、集合の要素の個数を求めることができる。 ○和集合や補集合の要素の個数の公式を用いることができる。	○ベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。 ○集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に教えようとする。	
	3. 樹形図、和の法則、積の法則	5	○場合の数を、もれなく重複なく数える手段として、樹形図が有用であることを理解している。 ○樹形図や和の法則、積の法則を用いることができる。	○場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ○自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。	○1つの原則を決めて、樹形図などを利用して、もれなく重複することなく数えようとする。 ○正の約数の個数を数えることに興味をもつ。
	4. 順列		○順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ○具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	○積の法則から順列の公式を考察することができる。 ○具体的な問題を通じて順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	
	5. 円順列と重複順列	6	○円順列の用語、公式を理解し、利用できる。 ○重複順列の用語、公式を理解し、利用できる。	○既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。 ○具体的な問題を通じて、円順列、重複順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	○順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。
	6. 組合せ		○組合せの用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ○組分けの問題を処理できる。 ○同じものを含む順列の総数を求めることができる。	○順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 ○同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。	○組合せの考え方を利用して、図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。
第2節 確率	7. 確率の意味	7	○確率の意味を理解している。	○身近な試行によって起こる事象と関連づけながら、実験などを通じて確率に興味・関心をもつ。	
	8. 確率の計算		○事象を集合で表すことができる。 ○試行や事象の定義を理解している。 ○確率の定義に基づき、事象の確率を求めることができる。	○試行の結果を事象としてとらえ、事象を既知の集合と結びつけて考えることができる。	
	9. 確率の基本性質		○積事象、和事象の意味を理解し、具体的な事象に対して、積事象、和事象を集合で表すことができる。	○和事象、積事象、排反、空事象、確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとする。	
	10. 和事象の確率		○確率の加法定理を用いて、確率を求めることができる。	○一般の和事象の確率を集合と関連づけて考察しようとする。	

	1 1. 余事象の確率	9	○余事象の確率の公式を利用して、確率を求めることができる。	○補集合をもとに、余事象を考察することができる。	
	1 2. 独立な試行の確率		○独立な試行の意味を理解している。 ○独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	○2 つの独立な試行を行うとき、その結果として起こる事象の確率について考察することができる。	○独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。
	1 3. 反復試行の確率		○反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	○反復試行の確率を、具体的な例から直感的に考えることができる。	○具体的事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。
	1 4. 条件付き確率	10	○条件付き確率の定義、意味を理解している。 ○条件付き確率を、公式を用いて求めることができる。		○くじ引きの確率が、引く順番に関係なく等しくなることに興味をもつ。
	1 5. 期待値		○期待値の定義を理解し、確率の性質などに基づいて期待値を求めることができる。		
三角形の性質	1. 角の二等分線と比		○平行線の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 ○三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。	○証明する際に、適当な補助線を引いて考察することができる。	○線分を分ける点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。
	2. 三角形の外心、内心、重心		○外心・内心や重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる	○図形の性質を証明するのに、間接的な証明法である同一法を適用することができる。	○三角形の3 辺の垂直二等分線や3 つの角の二等分線及び3 本の中線が1 点で交わることの証明方法に関心をもつ。
第2 節 円の性質	4. 円周角の定理	11	○円周角の定理を用いて、角の大きさを求めることができる。		
	5. 円に内接する四角形		○円に内接する四角形の性質を用いて、角の大きさを求めることができる。 ○四角形が円に内接するかどうかを判定できる。	○三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を理解する。	○三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を考察しようとする。
	6. 円と接線		○円の接線の性質を用いて、辺や線分の長さを求めることができる。	○円と直線の位置関係に3 つの場合があることを理解している。	
	7. 接線と弦の作る角		○接線と弦の作る角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。	○接線と弦の作る角についての定理の証明方法を理解する。	○接線と弦の作る角についての定理を証明する際に、鋭角の場合と鈍角の場合に分けて考察しようとする。
	8. 方べきの定理		○方べきの定理を用いて、線分の長さを求めることができる。	○方べきの定理の証明方法を理解する。	○方べきの定理は、円周角の定理や円に内接する四角形の性質などを用いて証明されることに関心をもつ。
第3 章 1 約数と倍数	1. 約数と倍数	12	○約数・倍数の意味を理解している。		○日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。
	2. 素数と素因数分解		○「エラトステネスのふるい」を利用して、100 以下の素数を求めることができる。 ○自然数の素因数分解を求めることができる。		○数学史に興味・関心をもつ。 ○暗号技術に素因数分解の考えが活用されていることに興味・関心をもつ。
	3. 整数の割り算		○整数 a を正の整数 b で割る割り算を、a と b の間に成り立つ等式として捉えることができる。 ○カレンダーの曜日の規則と整数の割り算の関係を理解し、問題を処理することができる。	○問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。	○カレンダーの話題を通じて、日常に関連した法則や規則を数学を用いてとらえることに興味・関心をもつ。
不定方程式	1. 最大公約数		○公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。 ○素因数分解を利用して最大公約数を求める方法を理解している。		
3 記数法	2. 現代の記数法	1	○記数法、10 進法、2 進法、n 進法について理解している。 ○n 進法の整数を 10 進法で、10 進法の整数を n 進法で表すことができる。	○現代の記数法を古代の記数法と比較し、特徴を理解している。	○コンピュータなどの身近な物に、n 進法の考え方が活用されていることに興味・関心をもつ。

科目「 体育 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	3単位	学年・学科	全学科3学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ2024				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらす、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をすることなく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	体づくり運動 集団行動、ラジオ体操 水泳	○ 体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める。 ○ 集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ。 ○ 正しい泳法を学ぶとともに、命について学ぶ。	一斉・グループ 個別	ラジオ体操 水泳
9 10 11 12	球技 球技・体育理論 陸上競技(長距離走) 校内ロードレース大会 球技	○ 仲間との協力とともに技能を高める。 ○ 豊かなスポーツライフの設計の仕方について学ぶ。 ○ 運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技
1 2 3	体づくり運動 球技 球技・体育理論	○ 体力の向上に重点を置き、体力を高めるための運動、実生活に生かせる運動を行う。 ○ 豊かなスポーツライフの設計の仕方について学ぶ。	一斉・グループ 個別	校内ロードレース大会 球技

3. 評価の観点と方法

知識及び技能 【 】は評価方法	思考力・判断力・表現力等 【 】は評価方法	学びに向かう力・人間性等 【 】は評価方法
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。 【技能テスト・記録測定・理解度チェック、観察】	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【観察、発表、ワークシート、レポート】	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保している。 【観察・授業態度、出席状況】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	比率(%)	その他
授業観察・テスト	40	10	10	60	
提出物等		10		10	
授業態度・発表		10	10	20	
出席状況			10	10	
				100	

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	2単位	学科・学年	全学科 3年
使用教科書	COMET English Communication Ⅱ (数研出版)				
副教材等	COMET基本文法定着ドリル② (数研出版)、チャンクで英単語Basic、ドリルノート② (三省堂)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	聞いたり読んだりしたことを活用し、話したり書いたりするなど総合的な言語活動を通して4技能5領域を育成する。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得できる資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをきちんと仕上げ、提出する。

2. 計画 観点別評価：【主体的に学習に取り組む態度】 (=【主】)、【知識・技能】、【思考・判断・表現】

月	学習内容	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・ 考査
4 5	Lesson 5 Goal Setting	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定において重要なことについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 seem + to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 自分の目標について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> seem + to 不定詞 自分が立てた目標についてやり取りする。 	平常考査 中間考査
6 7	Lesson 6 The High School Hair Salon	<ul style="list-style-type: none"> 高校生美容室の活動内容や部員の思いについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 助動詞+have+過去分詞の用法を理解している。【知識・技能】 就きたい職業について情報や考えを整理して書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞+have+過去分詞 就きたい職業について発表する。 過去完了形 環境のために自分ができることについて英語で書く・発表する。 	平常考査 期末考査
9 10	Lesson 7 You Can Make a Difference	<ul style="list-style-type: none"> Bye Bye Plastic Bags 計画を理解するために概要や要点を把握しようとする。【主】 過去完了形の用法を理解している。【知識・技能】 環境のために自分ができることを情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞what 関係副詞 誰もが暮らしやすい社会について書いたり、話したりする。 	平常考査 中間考査
11 12	Lesson 8 Nudge パフォーマンステスト	<ul style="list-style-type: none"> ナッジについて理解を深めるために、本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 関係代名詞 what の用法を理解している。【知識・技能】 身の回りの問題の解決策について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞what 関係副詞 誰もが暮らしやすい社会について書いたり、話したりする。 	平常考査 中間考査
11 12	Lesson 9 The Father of Braille Blocks パフォーマンステスト	<ul style="list-style-type: none"> 点字ブロックの開発者について本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 関係副詞の用法を理解している。【知識・技能】 誰もが暮らしやすい社会について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 使役動詞 サービスについて意見を書いたり、発表したりする。 	平常考査 期末考査
1 2	Lesson 10 Do We need That? パフォーマンステスト	<ul style="list-style-type: none"> 日本のサービスに対する留学生の考えについて概要や要点を把握しようとする。【主】 取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 使役動詞の用法を理解している。【知識・技能】 必要・不要だと思うサービスについて英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 使役動詞 サービスについて意見を書いたり、発表したりする。 	平常考査 期末考査
1 2	Lesson 11 The Vancouver Asahi パフォーマンステスト	<ul style="list-style-type: none"> 日系カガ 人の野球チーム バックパ-朝日について概要や要点を把握しようとする。【主】 取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 知覚動詞の用法を理解している。【知識・技能】 人権の問題について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 知覚動詞 +O+動詞の原形 人権問題について学ぶ。 	平常考査 学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な単語や語句の意味を理解し正しく発音できる。 例文を暗記でき、簡単な内容の英文が理解できる。 【定期考査・平常考査】 【パフォーマンステスト】 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できる。 【授業中の態度】 【定期考査・平常考査】 【パフォーマンステスト】 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に積極的に質問したり、答えようとしている。 提出物を期限を守って提出している。 【授業中の態度】 【出席状況】 【パフォーマンステスト】 【提出物】
4割	3割	3割

教科	農業	単位数	2単位	学科・学年	畜産科学科・3年
使用教科書等	畜産（実教）、生物活用（実教）、農業と環境（実教）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	各部門に関わることがらから、各自で課題を見つけ探究する
学習の到達目標	各部門に関わる課題を探究し、P D C Aを行い、まとめる。
取得できる資格	なし
授業を受ける心構え	各部門に関わる課題を発見し、自ら解決方法を模索して、計画からまとめまで主体的に取り組む姿勢

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	課題の洗い出し	課題について討議	協議	
5	調べ学習	タブレット端末で調査	調査と発表	
6	テーマ設定	テーマを決める		
7	計画作成	実践計画の作成	グループ	レポート
9	実践、記録、まとめ、	計画の実践	各自実践を	
10	振り返りを随時行う	記録の作成	を行い、定期	
11		振り返りと評価	的に発表し	
12		計画の修正	て共有	レポート
1	まとめと発表	年間のまとめと発表	発表	レポート

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	課題について、体系的・系統的に考え、関連した技術を用いて課題解決に取り組める。	課題を発見し、解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組める。
評価の方法・割合	【レポート、発表内容】	【レポート、実習態度、発表態度】	【レポート、実習態度、発表態度】
	3割	3割	4割

科目「課題研究（動物産業Ⅰ）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業	単位数	2単位	学年・学科	3学年 畜産科学科
使用教科書	畜産（実教出版）、農業と環境（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	各部門に関わることがらから、各自で課題を見つけ探究する
学習の到達目標	各部門に関わる課題を探究し、PDCAを行い、まとめる
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	各部門に関わる課題を発見し、自ら解決方法を模索して、計画からまとめまで主体的に取り組む姿勢

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	課題の発見	畜産、特に動物産業Ⅰおよび養鶏における課題点を各自で発見し、調べ学習や予備試験を通して課題解決に向けた実践計画を設定する。	・協議 ・調査および実習	記録用紙 レポート
5	研究計画の設定			
6	調べ学習			
7	予備試験			
9	研究実践、記録、まとめ	各自で課題研究を実践し、記録およびまとめを適宜行う。随時振り返りを行い、定期的に部門内で内容確認や全体振り返りを通して共有する。	・各自で実習 ・発表	記録用紙 レポート
10	振り返りを随時行う			
11				
12				
1	まとめ及び発表	年間のまとめと振り返りを用いて発表する	・発表	レポート 発表
2				

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

知識・技能（3割）	思考・判断・表現（3割）	主体的に学習に取り組む態度（4割）
課題について体系的・系統的に考え、これまで身に付けた知識・技能や他科目の内容を用いて課題解決に取り組んでいる。	動物産業Ⅰ及び養鶏に関する諸課題を発見し、その課題に対する解決策を探究し、創造的に解決する力を身に付けている。	設定した課題に対して深い興味を持ち、課題解決が畜産の発展へ繋がるよう主体的に取り組み、実践的で協働的な態度を身に付けている。
【記録用紙、レポート、発表内容】	【記録用紙、レポート、実習及び発表態度】	【記録用紙、レポート、実習及び発表態度】

教科	農業	単位数	2単位	学科・学年	各学科・3学年
使用教科書等	畜産（実教）、農業と環境（実教）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	各部門に関わることがらから、各自で課題を見つけ探究する
学習の到達目標	各部門に関わる課題を探究し、PDCAを行い、まとめる。
取得できる資格	なし
授業を受ける心構え	各部門に関わる課題を発見し、自ら解決方法を模索して、計画からまとめまで主体的に取り組む姿勢

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	課題の洗い出し	課題について討議	協議	
5	調べ学習	タブレット端末で調査	調査と発表	
6	テーマ設定	テーマを決める		
7	計画作成	実践計画の作成	グループ	レポート
9	実践、記録、まとめ、	計画の実践	各自実践を	
10	振り返りを随時行う	記録の作成	を行い、定期	
11		振り返りと評価	的に発表し	
12		計画の修正	て共有	レポート
1	まとめと発表	年間のまとめと発表	発表	レポート

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	課題について、体系的・系統的に考え、関連した技術を用いて課題解決に取り組める。	課題を発見し、解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組める。
評価の方法・割合	【レポート、テーマと課題、計画、調べ学習①】 3割	【レポート、課題の実践調べ学習②】 3割	【レポート、実習態度、発表態度】 4割

教科	農業	単位数	2単位	学科・学年	各学科・3学年
使用教科書等	畜産（実教）、生物活用（実教）、農業と環境（実教）				
副教材等	馬学（上）（下）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	各部門に関わることがらから、各自で課題を見つけ探究する
学習の到達目標	各部門に関わる課題を探究し、PDCAを行い、まとめる。
取得できる資格	なし
授業を受ける心構え	各部門に関わる課題を発見し、自ら解決方法を模索して、計画からまとめまで主体的に取り組む姿勢

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	課題の洗い出し	課題について討議	協議	
5	調べ学習	タブレット端末で調査	調査と発表	
6	テーマ設定	テーマを決める		
7	計画作成	実践計画の作成	グループ	レポート
9	実践、記録、まとめ、	計画の実践	各自実践を	
10	振り返りを随時行う	記録の作成	を行い、定期	
11		振り返りと評価	的に発表し	
12		計画の修正	て共有	レポート
1	まとめと発表	年間のまとめと発表	発表	レポート

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	課題について、体系的・系統的に考え、関連した技術を用いて課題解決に取り組める。	課題を発見し、解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組める。
評価の方法・割合	【レポート、発表内容】	【レポート、実習態度、発表態度】	【レポート、実習態度、発表態度】
	3割	3割	4割

科目「農業と情報」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業	単位数	1 単位	学年・学科	3 学年 畜産科学科
使用教科書	農業と情報 実教出版株式会社発行				
副教材等	ライフイズテック				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業に関する情報の整理や、計算、発表スライドを作るなどを通して情報処理に関する知識と技術を習得させていく。また、資格取得の一環として「ワープロ実務検定試験」、「情報処理検定試験」、「プレゼンテーション作成検定試験」などの合格を目指す。
学習の到達目標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、知識と技術を習得させるとともに、農業情報及び環境情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。
取得可能な資格	各種パソコン関係検定
授業を受ける心構え	積極的に授業に参加し、忘れ物をせず、きちんとした身だしなみで授業を受ける。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	農業情報及び 環境情報の活用 農業学習と情報活用	農業情報及び環境情報を、ネットワークの場面から考察する。LANやサーバの仕組みとインターネットの閲覧の仕組みとデータベースについて学ぶ。	・演習(座学)	平常考査 小テスト 学期末考査
9 10 11 12	農業情報及び 環境情報の活用 農業学習と情報活用	農業情報及び環境情報を、表計算ソフトを用いて処理する技術と知識を学ぶ。専攻学習と連携しプロジェクト活動のデータを処理し、グラフや表を作成して卒業論文に活用する。プレゼンテーションを活用し、プロジェクト学習の発表準備を行う。	・演習(座学) ・	平常考査 小テスト 学期末考査
1 2 3	農業情報及び 環境情報の活用 農業学習と情報活用	専攻学習と連携し、プロジェクト活動のデータ処理とプログラミングデータの活用について発表準備を行う。	・演習 ・発表会	平常考査 学年末考査

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	農業と情報について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	農業と情報に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	農業と情報について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の方法・割合等	【定期考査、平常考査、確認テスト、実習】	【定期考査、平常考査、授業態度・確認テスト、提出物】	【平常考査、ポートフォリオ、授業態度・出物】
	4 割	3 割	3 割

科目「農業経営」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校生徒用

教科	農業経営	単位数	2単位	学科・学年	畜産科学科・3学年
使用教科書	農業経営（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	将来、農業経営者やその他の部門でも経営者になったときにどのようなことが大事で経営者の何が必要かを学ばせる。
学習の到達目標	農業経営の①設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、②コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに、③経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。
取得できる資格	特記なし
授業を受ける心構え	今の日本の農業経営と世界情勢、大切な簿記を真剣に考えさせる。

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	・農業の動向と農業経営 ・農業のマネジメント	・日本と世界の農業 ・農業経営の動向 ・農業マネジメント ・リスクのマネジメント	座学 ワークシート	平常考査（4割） 期末考査（6割）
9 10 11 12	・農業のマーケティング ・農業の マーケティング活動	・農業マーケティングの概要 ・農産物のブランド化 ・市場調査と環境分析 ・農業経営の設計と診断	座学 ワークシート	平常考査（4割） 期末考査（6割）
1 2 3	・農業経営、 マーケティングの実践	・法人化と6次産業化 ・自社ブランドによる高級感と 差別化の実践	座学 ワークシート	平常考査（4割） 学年末考査（6割）

3. 評価の観点と方法

知識・技術（4割） 【 】は評価方法	思考・判断・表現（3割） 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度（3割） 【 】は評価方法
農業経営の設計と管理に必要な基本的な知識、コスト管理やマーケティングの技術などを身に着け農業経営改善の必要性を理解して学習できているか。 【授業態度・定期考査・平常考査・レポート】	農業管理の改善を目指し自ら思考を深め基本的な知識を活用するなどして課題を適切に判断し、さまざまな視点で表現することができたか。 【授業態度・定期考査・平常考査・レポート】	経営の設計や管理に興味関心を持ち、コスト管理やマーケティングの経営改善の探究に取り組み、課題を解決しようとする主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。 【授業態度・ワークシート・レポート・発表】

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
農業	農業機械	畜産科学科	3	2	農業機械（実教出版）	なし

1 科目の目標と評価の観点

目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業機械の取り扱いと維持管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	<p>(1) 農業機械について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業機械について特性を理解し、効率的な利用へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
評価の観点	知識・技能（術）	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	農業機械について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。	農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けることができたか。	農業機械について特性を理解し、効率的な利用へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けることができたか。
評価の方法・割合等	定期考査 授業記録 平常考査（技能試験等） 課題レポート 学習（実習）状況 等	定期考査 授業記録 平常考査（技能試験等） 課題レポート 学習（実習）状況 等	学習（実習）状況 課題レポート 提出物 等
	4割	3割	3割

2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価規準等		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1章 農業機械の役割	4 5	農業機械の基本的・基礎的な構造と機能についての知識を理解することができた。農業経営における機械の役割を理解している。	農作業における農業機械の意義について判断することができた。	農業機械化に必要な情報を集め、まとめ自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができた。
第2章 原動機	6 7	各種内燃機関の構造や燃料の違いについて理解している。	内燃機関の構造を理解し、適切な整備を行う技能を習得するために思考を深め、適切に表現している。	イ構造を理解し、適切な整備を行う技能を習得するために興味・関心をもち、体系的な知識と技術について探究しようとしている。
第3章 トラクタ	9 10 11 12	トラクタの農作業における役割について正しく理解している。	トラクタの構造を理解し、適切な操作や整備を行う技能を習得するために思考を深め、適切に表現している。	トラクタの仕組みについて興味・関心をもち、それらの構造や使用法の違いについて探究しようとしている。
第5章 農業機械の安全	1 2	安全に関する法規を正しく理解し、農業機械の整備と保守の役割について正しく理解している。	農業機械の整備と保守の方法やそれらに関する法規を理解し、農業機械による事故や健康障害について思考を深め、適切に表現している。	安全に関する法規を正しく理解し、農業機械の整備と保守の役割について正しく理解している。

科目「食品製造」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農 業	単位数	2 単位	学年・学科	3 学年 畜産科学科
使用教科書	食品製造（実教出版）				
副教材等	ファイル、授業プリント				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	食品製造の意義や基礎・加工実習
学習の到達目標	食品製造の知識や技術を習得する。
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	食品製造について興味関心を持って臨み、併せて衛生管理を徹底し食中毒予防に努める。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	食品製造の意義と動向	・食品製造の目的や必要性について知る。	・一斉授業(座学)	中間考査
5	食品製造の基礎	・様々な食品の加工と実際について知る。	・実習・観察	
6	食品の変質と貯蔵法	・変質原理や貯蔵について理解する。		
7	牛乳の加工	・ヨーグルトの加工工程と原理について理解する。		学期末考査
9	食品の包装と表示	・包装の目的とその意義について理解する。	・一斉授業(座学)	中間考査
10	食品加工と食品衛生	・食品衛生の重要性について理解する。	・実習・観察	
11	卵の加工	・プリン・マヨネーズの加工工程と原理について理解する。		
12	肉類の加工	・ハム・ベーコンの加工工程について理解する。		学期末考査
1	年間のまとめ	・まとめ	・一斉授業(座学)	学年末考査
2			・実習・観察	
3				

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	単元の目標を理解し、食品製造の基礎的・基本的な知識を身に付け、加工原理を理解することができたか。	科学的な視点で捉え、内容について理解し適切な判断ができるか。また実習結果について考察できるか。	食品製造について興味関心を持ち、学習や実習体験に取り組んでいるか。
評価の方法・割合	【定期考査、平常考査、レポート、授業態度】	【定期考査、平常考査、レポート、授業態度、発表】	【授業態度、出席状況】
	4 割	3 割	3 割

科目「畜産」シバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農 業	単位数	6単位	学年・学科	3学年 畜産科学科
使用教科書	畜産(実教出版)				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	乳用牛・肉用牛の施設から経営や牛の生理生態や特徴を学ぶ。
学習の到達目標	牛の特性や飼養管理、環境等について、基礎・基本をもとに経営技術を培う。
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	命を大切にすることを養い、学ぶ姿勢を持つ。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	プロジェクト学習計画・立案	研究テーマの決定・計画	・実習観察	
5	泌乳の仕組み、飼料給与計算	泌乳の仕組み、飼料について理解する。	・実習観察	
6	繁殖生理と人工授精技術	繁殖生理について理解する。	・実習観察	学期末考査
7	肥育牛の生産生理と特徴	肥育牛の生理、飼育について理解する。	・実習観察	
9	飼料の配合	飼料の配合について理解する。	プロジェクト中間発表会	
10	牛舎の構造、病気と衛生	牛舎の構造、病気について理解する。	・実習観察	中間考査
11	畜産における新技術	胚移植等の新技術について理解する。	・実習観察	
12	牛乳の生産と流通	牛乳の流通、加工について理解する。	プロジェクト発表会	学期末考査
1	1年間のまとめ	卒業論文のまとめ	卒業論文	学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技能(技術) (4割)	思考・判断・表現 (3割)	主体的に学習に取り組む態度 (3割)
畜産、特に牛の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、家畜の意義や役割を理解している。 【考査、レポート、授業態度】	畜産に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、レポート、授業発表】	畜産に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】

科目「動物産業Ⅰ」シラス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業	単位数	6単位	学年・学科	3学年 畜産科学科
使用教科書	畜産(実教出版)				
副教材等	動物愛護社会化検定専門級試験公式テキストブック				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	プロジェクト学習を主体とし、自発的に学ぶ態度と創造工夫の力を育てる。
学習の到達目標	家禽及び伴侶動物の特性・習性・飼養管理に関する知識を得る。
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	動物への観察眼を意識し、個体差を考慮しながら積極的に活動する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	プロジェクト学習の意義	プロジェクト学習を理解しテーマを設定する。	・一斉授業 ・プロジェクト学習および実習	実習レポート 小テスト
5	犬の飼養管理	犬の特性・繁殖・販売を理解する。		
6	犬の飼養管理	犬の品種や活用、しつけを理解する。		
7	鶏の飼養管理	幼びなの管理について理解する。		
9	鶏の飼養管理	中・大びなの管理について理解する。	・プロジェクト学習および実習 ・中間発表	実習レポート 小テスト
10	鶏の飼養管理	繁殖と育成について理解する。		
11	鶏の飼養管理	産卵とふ化について理解する。		
12	1年間のまとめ	プロジェクト学習の成果をまとめる。		
1	まとめ及び発表	プレゼンテーションソフトを用いて発表する。	・プロジェクト学習および実習 ・プロジェクト発表	プロジェクトレポート 学年末考査
2				

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

知識・技能(3割)	思考・判断・表現(3割)	主体的に学習に取り組む態度(4割)
<p>家禽および伴侶動物の各分野に関する基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、畜産について体系的に理解しているとともに、その技術を適切に活用している。</p> <p>【定期考査、小テスト、実習レポート、発表】</p>	<p>家禽および伴侶動物に関する諸課題を発見し、畜産や伴侶動物に携わる者として適切に判断している。また、諸課題に対する考えを深め創造的に解決する力を身に付けている。</p> <p>【定期考査、小テスト、実習レポート、発表】</p>	<p>家禽を中心に畜産や伴侶動物について関心を持ち、諸課題の改善や向上が畜産の発展へ繋がるよう主体的に取り組む、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【実習レポート、実習態度・発表、自己評価】</p>

科目「動物産業Ⅱ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農 業	単位数	6 単位	学年・学科	3 学年 畜産科学科
使用教科書	畜産（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	豚・野生動物の施設から経営、特徴等を学ぶ
学習の到達目標	豚・野生動物の課題を見つけ、解決していく能力を育み、経営的感覚を培う
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	命に携わっている自覚と責任、学ぶ姿勢を育む

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	豚の病気と予防衛生	<ul style="list-style-type: none"> 豚の病気とその原因について理解する。 豚の消化吸収について理解する。 飼料の特性を知り、飼料設計ができる。 養豚の経営形態について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習・観察 	中間考査 学期末考査
5	豚の消化吸収			
6	家畜と飼料			
7	養豚の経営			
9	家畜の生理・生態と飼育環境	<ul style="list-style-type: none"> 豚の生理・生態を理解したうえで飼育環境を整えることができる。 家畜排泄物が環境へ与える影響について理解する。 豚の加工技術について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習・観察 	中間考査 学期末考査
10	環境			
11	家畜排泄物の処理と利用			
12	豚の加工	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 実習・観察 	学年末考査 卒業論文
1	年間のまとめ			
2				
3				

3. 評価の観点と方法

	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	豚・野生動物の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、産業としての価値を理解する。	学ぶ目的と学び方、及び学習分野について考察する。	豚・野生動物の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に実習にも参加する。
評価の方法・割合	【定期考査、平常考査、レポート、授業態度】	【定期考査、平常考査、レポート、授業態度、発表】	【授業態度、出席状況】
	4 割	3 割	3 割

科目「動物産業Ⅲ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校

生徒用

教科	農 業	単位数	6 単位	学科・学年	畜産科学科 3 学年
使用教科書	畜産（実教）				
副教材等	馬学（上）（下）・畜産（実教）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	馬と触れ合いながら、知識・技術を身につける
学習の到達目標	馬の生理・生態についての正しい知識・技術の習得
取得できる資格	なし
授業を受ける心構え	馬の特徴を理解する

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	乗馬と馬の習性	馬の習性を理解させる	授業(座学)	
5	馬体の構造	馬の体型を理解させる		平常考査
6	馬体の構造と機能	馬の特徴を理解させる	乗馬訓練	
7		馬の運動生理を理解させる		学期末考査
9	馬体の繁殖生理	馬の繁殖方法を理解させる	授業(座学)	平常考査
10	馬の調教と乗馬	馬の調教技術を理解させる	実習	
11	馬の飼養	馬の飼養方法を理解させる		平常考査
12	馬の病気	馬の伝染病等を理解させる		学期末考査
1	まとめと卒業論文の作成	年間のまとめ	授業(座学)	学年末考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	馬の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、産業としての価値を理解する。	学ぶ目的と学び方、及び学習分野について考察する。	馬の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に実習にも参加する。
評価の方法・割合	【平常考査、定期考査、授業態度】	【平常考査、定期考査、レポート、授業態度、発表】	【授業態度、レポート、出席状況】
	4 割	3 割	3 割